

憲法部類追加

廿六

73

6205

12



过屋舖
番

又



渡島文庫

渡島文庫
蔵

78
6205
12

一 正徳二年六月七日

必修版



支此角内控左京元山加浦三田元山加浦内
也昔角内控左京元山加浦三田元山加浦内

右序長登二表上首二中下版

一 享保二年二月廿日

如濱山由本下法多情
名以濱山由本下法多情

形度古火二身加浦類焼く而く山加浦

内加浦を定むる事信然く志し加浦

内加浦はたけの國持をくくくく

名帳より、夢信初稿と相違ふ所極多
未だ、如何しゆやと云ふ事不明
大きく、如何しゆやと云ふ事不明
以上

二月

一 京保二箇年六月吉日迄の書身山名物意
以上

一 名年但事記述居る補書由は、其
位、如何しゆやと云ふ事不明
一 位、如何しゆやと云ふ事不明
一 のと云ふ事不明

一 名年但事記述居る補書由は、其
位、如何しゆやと云ふ事不明

一 法及留小書信入名改め、其
位、如何しゆやと云ふ事不明

六月

萬田仍後書
山名物意

書

一 居る補

不附
坪敷

右左補致任是、其
位、如何しゆやと云ふ事不明

右の外所持し厚浦も生等と書由通
お造りお社の上

年月日

雅

宛所

一 東保二〇年十月十日

北田福

借入

一 百姓地、追奉抱至、取多、有く、山、草、場、
隣、後、下、草、生、共、之、根、抱、而、取、不、持、
江、並、手、之、後、止、不、右、之、後、取、以、抱、而、浦、持、
因、取、拂、下、江、向、海、向、後、割、取、抱、而、浦、

浦の地停止事

一 右、厚、浦、江、之、取、り、止、事、
一 右、厚、浦、江、之、取、り、止、事、
一 右、厚、浦、江、之、取、り、止、事、

一 右、厚、浦、江、之、取、り、止、事、

一 右、厚、浦、江、之、取、り、止、事、
一 右、厚、浦、江、之、取、り、止、事、

但竹末鞠りり雨に無事と結切拂り
 一居屋浦中より印に取付し筆に抱を
 費し團に去り拂り家去るに後より為勝子
 次子に若長を影護り別抱を費し家
 致は毛はりのあつたる当に團に去る
 不致は元より筆に團に去りし後子に
 牛中事

但中居屋の片や括り未中の取付
 而し新法よりお忍び中の取付より
 抱を費し去り筆に事

一信は浪人所人古抱を費し家取物

信は浪人所人古抱を費し家取物
 相預括別より取付より次保りより
 一ありし事

一團に拂は共仍物未の取付中抱を費し
 一の為勝子に筆に替り人取去り百性並
 家去り筆に不及し事

一寺社百姓あり抱を費し取付の回中事
 右抱を費し取付由信中より信由信渡り信未
 の市右馬山を御取付方より一の取付馬は團
 二拂は信より筆に去りし浦政より一の取付を
 以上

酉十月

一 京保三戌年二月十日 於之 京保山 是物也
只相慶也

贊

誰故 何之誰

右 雅俊何村之抱面浦園家能之拂面性
並之 強之 中は 右の 後抱面 實之 是之
中 抱地 野畑 仕之 是 實 誰之 是 中
書 片之 五之 是 為之 古之 通之 仕之 是 之

何月日

誰

何人 宛新

一 京保三戌年二月十日 羽目 同中 水野
和泉 寺 殿 法 役 人 中 之 左 務 之 仕 渡 山 之 是 也
小 笠 原 平 之 情 之 如 也 也

是 之 之 之 万 事 之 用 後 約 之 也 也 保
跡 之 迹 事 實 之 出 之 身 之 家 仍 性 之 性
以 之 之 實 教 之 之 所 持 之 而 之 也 兼 之
城 之 之 也 之 之 之 之 官 限 之 也 之 務 之
之 實 之 之 用 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之
之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之

戊二月

一 京保に重年六月六日たてに京身保未何書

長古福

景

床に浦中を浦中を敷抱り敷抱り地所
由安所並る由敷所り地所へ幅而形以後
在敷所方へ相相は身而敷遠度耳
在敷所同家替あり後ありと移置傳書
之先大學作身而敷道り上敷はをり而後
在敷所あり敷に敷敷のりなり
右に敷敷あり敷に敷敷のりなり

重六月

一 京保に重年八月五日たてに京身保未何書

長古福

景

一 好願而浦中へ備至自方志印、身在
敷敷あり敷に敷敷のりなり其志のり敷敷あり
右敷敷あり敷に敷敷のりなり其志のり敷敷あり
左敷敷あり敷に敷敷のりなり其志のり敷敷あり
重年保未何書
一 後敷敷あり敷に敷敷のりなり

他に信を以て信する事なきは為る他は又た此の
お波を以て信する事なきは

一 知りし者一類方々別々至海至東印
信を以て信する事なきは

一 町至浦より勿薄く候方因分抄し而浦
希く候事候事若く括列す印古款
候事若く候事信を以て信する事なきは

次す信する事なきは

一 大寺に候事其の事方善法繼仕候事
印に候事仕候事若く候事若く候事
信を以て信する事なきは

右に通り候事而浦信する事なきは
佛に候事若く候事若く候事若く候事

五月

一 享保三亥年十月廿六日乃々書付渡辺市記

信を以て信する事なきは

海原而浦自台波候事而波瑞と親款、
信を以て信する事なきは若く候事若く候事
親款若く候事若く候事若く候事若く候事
若く候事若く候事親款を若く候事若く候事
信を以て信する事なきは若く候事若く候事

おさむは佐伯の御志を不仕奉る

一 享保六年三月三日日付に於て佐伯の御志を不仕奉る事
と申す御志は佐伯の御志を不仕奉る事と相記す

佐伯の御志は佐伯の御志を不仕奉る事と相記す

佐伯の御志は佐伯の御志を不仕奉る事と相記す

佐伯の御志は佐伯の御志を不仕奉る事と相記す

佐伯の御志は佐伯の御志を不仕奉る事と相記す

佐伯の御志は佐伯の御志を不仕奉る事と相記す

子二月

和日破山書外奉る御志を
後略く事記す

一 享保六年三月十日二日付に於て佐伯の御志を不仕奉る事
と相記す

貴

一 佐伯の御志は佐伯の御志を不仕奉る事と相記す

佐伯の御志は佐伯の御志を不仕奉る事と相記す

佐伯の御志は佐伯の御志を不仕奉る事と相記す

佐伯の御志は佐伯の御志を不仕奉る事と相記す

佐伯の御志は佐伯の御志を不仕奉る事と相記す

佐伯の御志は佐伯の御志を不仕奉る事と相記す

佐伯の御志は佐伯の御志を不仕奉る事と相記す

佐伯の御志は佐伯の御志を不仕奉る事と相記す

江戸中

一 師方より志鳥にありて筆に字を志と撰成
後或は権威の命なき様子をいひて受
筆を志守りて心算通取をこの事とせし事
但此物も白海池をわけて筆に後ひて

江戸中

一 百一十の如くして後師方筆に或は或は
若くは生をいひて心算通取を其筆に
この事相成し事

本と結りて相成し以上

五月十日

一 享保七年三月廿日木下清生書に相成し
此意及書付て又は節を去る事とせし事

白海池をわけて撰成し事
及此は後撰一の中にも有る事とせし事

三月

一 享保八年二月十日木下清生書に相成し
此意及書付て又は節を去る事とせし事

江戸中法負て又は筆に或は或は
此中にも有る事とせし事
此中にも有る事とせし事

江戸中

六 為元坊... 一 人執... 一 傳事...

一 人執... 一 傳事...

一 傳事...

一 傳事...

一 傳事...

一 傳事...

一 傳事...

一 傳事...

一 傳事...

一 傳事...

一 傳事...

一 傳事...

一 傳事...

一 傳事...

一 傳事...

一 傳事...

一 傳事...

一 傳事...

一 傳事...

一 傳事...

一 傳事...

中園殿に所中丸也日身... 兼多ふお心持な事代御は... 為心也... 但二瓦と御少知... 西... 一

一 京保中己未三月... 一 京保中己未三月... 一 京保中己未三月...

一 京保中己未三月... 一 京保中己未三月... 一 京保中己未三月... 一 京保中己未三月... 一 京保中己未三月...

一 京保中己未三月... 一 京保中己未三月... 一 京保中己未三月... 一 京保中己未三月... 一 京保中己未三月... 一 京保中己未三月... 一 京保中己未三月... 一 京保中己未三月... 一 京保中己未三月... 一 京保中己未三月...

一 京保中己未三月... 一 京保中己未三月... 一 京保中己未三月... 一 京保中己未三月... 一 京保中己未三月...

大相神

高希中濃は法を如くして有るは亦
向きの善法にして一因の家化未
多し精は世の法尚幸中 善法は
中未の精は世の法尚幸中 善法は
向きの善法にして一因の家化未
多し精は世の法尚幸中 善法は
中未の精は世の法尚幸中 善法は
向きの善法にして一因の家化未
多し精は世の法尚幸中 善法は

右の語句は一とありき

九月

一 高保土の事ありて乃て此書に相ありて
は和福

一 起る而性地抱の言 事所並に言申す
後後 後 而性地抱の言 事所並に言申す
也 了る事一は 此語は
は 善法は世の法尚幸中 善法は
向きの善法にして一因の家化未
多し精は世の法尚幸中 善法は
中未の精は世の法尚幸中 善法は
向きの善法にして一因の家化未
多し精は世の法尚幸中 善法は

相重左衛門守之丞

右の如く本年松本領事付の如く向後お達
はし給へる事お達向へての事

年八月

一 享保十二年八月六日左と右書付申度

仔細に敵は事々御心おぼせり候事

申上り候事御心おぼせり候事

お上り候事御心おぼせり候事

申上り候事御心おぼせり候事

申上り候事御心おぼせり候事

この内御心おぼせり候事御心おぼせり候事

御心おぼせり候事御心おぼせり候事

御心おぼせり候事御心おぼせり候事

御心おぼせり候事御心おぼせり候事

御心おぼせり候事御心おぼせり候事

御心おぼせり候事御心おぼせり候事

右の如く候事御心おぼせり候事

八月

一 享保十二年八月六日左と右書付申度

右の如く候事御心おぼせり候事

十月

世の中は毎事天に
任せておきなう

一 享保十三年十月十五日
何れも敵を討つて
河川を治るべき

近來所々河川
治るべき事
相成る事
治るべき事
治るべき事
治るべき事

一 治るべき事

一 享保十三年
治るべき事

治るべき事
治るべき事
治るべき事
治るべき事
治るべき事
治るべき事
治るべき事
治るべき事
治るべき事
治るべき事

是又右左のちゝの思意書
其のつははめはあや及の
事平常く思てさすはあ
ゆゑは和弱りさこのは
あゝは和弱り色強力を
白梅のさは梅意梅意
あゝは平尺のあゝは
あゝは

二月

一 嘉保十八日 年正月十日 及び 正書 舟渡田千三郎

相弱

舟上右浦町の船被着く
あゝは和弱り色強力を
あゝは梅意梅意梅意
あゝは平尺のあゝは

あゝは相弱

正月

一元文三年七月十日
あゝは相弱

在浦場市臥平とていき有る所といふ事
しはしるし向後いき有る地也
今もいし地ありていし地あり

年七月

一 元文三年七月七日
いし地あり

常いし地ありていし地ありていし地あり
いし地ありていし地ありていし地あり
いし地ありていし地ありていし地あり
いし地ありていし地ありていし地あり

いし地ありていし地ありていし地あり
いし地ありていし地ありていし地あり
いし地ありていし地ありていし地あり
いし地ありていし地ありていし地あり

年七月

一 寛保二年三月七日
いし地あり

いし地ありていし地ありていし地あり
いし地ありていし地ありていし地あり
いし地ありていし地ありていし地あり
いし地ありていし地ありていし地あり

三月

一 寛文保正二年六月乃と云書あり

近以少監様いさしと云書あり
御書くを以て少と云書あり
御書くを以て少と云書あり
御書くを以て少と云書あり
御書くを以て少と云書あり

一 延享二年七月十八日堀田公智吉殿

と云書あり

清用兼所人西多資部一後支記と云

御書くを以て少と云書あり

御書くを以て少と云書あり

御書くを以て少と云書あり

御書くを以て少と云書あり

御書くを以て少と云書あり

御書くを以て少と云書あり

御書くを以て少と云書あり

御書くを以て少と云書あり

御書くを以て少と云書あり

御書くを以て少と云書あり

右の御書を以て少と云書あり

其の... 相知り... 入念...
其の... 相知り... 其の... 入念...
其の... 相知り... 其の... 入念...

但唯... 其を...
但唯... 其を...
但唯... 其を...

庚七月

一 慶元... 其の...
一 慶元... 其の...
一 慶元... 其の...

一新... 其の...
一新... 其の...
一新... 其の...

一 法... 其の...
一 法... 其の...
一 法... 其の...

其の... 其の...
其の... 其の...
其の... 其の...

其の... 其の...
其の... 其の...
其の... 其の...

一 其... 其の...
一 其... 其の...
一 其... 其の...

其の... 其の...
其の... 其の...
其の... 其の...

其の... 其の...
其の... 其の...
其の... 其の...

物心は懐信抱必は仕らぬと云ふ事

一 所見見ふ事亦信に在る性町人由縁

はしりしる事亦懐信に在る性町人由縁

性

性

一 申士の町人、懐信を可申たて

一 町人、懐信に在る性町人由縁

一 町人、懐信を町人、懐信に在る性

性

一 町人、懐信を町人、懐信に在る性

一 町人、懐信を町人、懐信に在る性

一 町人、懐信を町人、懐信に在る性

一 町人、懐信を町人、懐信に在る性

一 町人、懐信を町人、懐信に在る性

一 町人、懐信を町人、懐信に在る性

一 町人、懐信を町人、懐信に在る性

一 町人、懐信を町人、懐信に在る性

一 町人、懐信を町人、懐信に在る性

一 町人、懐信を町人、懐信に在る性

一 町人、懐信を町人、懐信に在る性

一 町人、懐信を町人、懐信に在る性

一 町人、懐信を町人、懐信に在る性

己二月

右へ通る浦へ又と海へはるわらわ
奇しくこのとき

一 寛文元年正月某日北風を以て津波

と云ふは海から浪板を以て

右へ通る浦へ又と海へはるわらわ

又上の相違なき保て年お初め

と云ふは海から浪板を以て

右へ通る浦へ又と海へはるわらわ

一 寶曆四年八月十日品目分

右へ通る浦へ又と海へはるわらわ

右へ通る浦へ又と海へはるわらわ

右へ通る浦へ又と海へはるわらわ

右へ通る浦へ又と海へはるわらわ

右へ通る浦へ又と海へはるわらわ

右へ通る浦へ又と海へはるわらわ

八月十日元
場中物平政由保書あり
右へ通る浦へ又と海へはるわらわ

あ

右へ通る浦へ又と海へはるわらわ

抑人而志氣分其為一而曰其
事在何之也四曰其誰也其在何處
若年而後也此而中上之類也若年
在何處也後也以此而中上之類也
五曰其

西教之文書書名略

小十人以其好禮感於上而書其姓名於其身
為如如死一也
而浦之自之他而之者相越其後也
以名也而後之也而之也而之也而之也
中上四曰其年也而之也而之也而之也

右神後有之也而之也而之也而之也
而之也而之也而之也而之也而之也

二月

小十人
西九
小十人

右神後有之也而之也而之也而之也
死也

一 寶延 嘉平六月廿八日板書依源寺殿案
而後也而之也而之也而之也而之也
而之也而之也而之也而之也而之也

近前之卯之春之辰之場之辰之辰之辰之辰
右之辰之辰之辰之辰

一 寶曆八年十月十日
此後之事は酒の因縁より

上野の事は山田の事
此の事は山田の事
右の事は山田の事

十月

一 寶曆九年正月

而性不持、細地を隠れ、抱を食仕、後
の事、山田の事、山田の事、山田の事
右の事、山田の事、山田の事、山田の事
右の事、山田の事、山田の事、山田の事
右の事、山田の事、山田の事、山田の事
右の事、山田の事、山田の事、山田の事

如中

右之通在浦改中渡

四月

一寶曆十一年

過番末了場ありき長夏多しはあはれ
と伝ふなりとに在浦るだれ。この月下
仲く、門心渡際、長をゆれ、
夏夏よりあや、知るる、弱き、
推すの、あはし、あはし、あはし、
あはし、あはし、あはし、あはし、

如中

位不中、後き、あはし、あはし、

右之通在浦改中渡

十一月

二枝常日

三高

一昭和元年、年少、あはし、あはし、
あはし、あはし、あはし、あはし、

如中

右之通在浦改中渡

而く其物を去るべし
其物を知る事
有る事を知る事
其物を知る事
其物を知る事

五月

松平信俊
松平信俊

一 安永二己未八月五日
其時を以て致す
其時を以て致す

而く在る浦中
其物を知る事
其物を知る事
其物を知る事

其物を知る事
其物を知る事
其物を知る事
其物を知る事

本と通二名相傳は

八月

一 安永己未年十月
其物を知る事
其物を知る事
其物を知る事

其物を知る事
其物を知る事
其物を知る事
其物を知る事

多しおむりひのふたはけぬ元々年過
要人御方字余は種一役名は月分
ふりてふりては我は月分曲調清
勤は中本編ふりて種怪り身
遠近ふりてはあは酒後身行ふ
忠神は了場は場八の戸は
場ふりて是ふりては場ふりては
弘の酒神は酒後身行ふ
本編ふりては月分
其場ふりては月分
ふりては月分

下り山若時老ふりて及路は
山月分中ふりては月分
中ふりては月分
ふりては月分
ふりては月分
ふりては月分
ふりては月分
ふりては月分
ふりては月分
ふりては月分

未十月

河津

一安形也

古川月身海常のりお福也

想合はしき事あり候あはれに候し候し候し
を事根お事出さる事候高懸事候し候し
為事候し候し候し候し候し候し候し候し
は事候し候し候し候し候し候し候し候し
者候し候し候し候し候し候し候し候し
市候し候し候し候し候し候し候し候し
也候し候し候し候し候し候し候し候し
口候し候し候し候し候し候し候し候し
中候し候し候し候し候し候し候し候し
右候し候し候し候し候し候し候し候し

十二月

一 安永九年二月廿日江戸書付山内下候者
と書付

西浦内を町人本、候し候し候し候し
口候し候し候し候し候し候し候し候し
中候し候し候し候し候し候し候し候し

三月廿日

一 丁卯己未九月廿二日

所見候し候し候し候し候し候し候し候し

日くく儀佳抱日浦海く不似女代
く可持ゆくの較りゆく子老の老所
くも市場内ゆ水掃くをるく山を持
抱日香帳也く古載市神社似き社
似日かきりす又平来園も他未開教
併於此以役人具くおるか相而安
改中潤くも手持く而くく相而安
一甲是ははそくく百姓是代く日く本坊
く若くもはく持く村役人たくくお誠は
但是速持くもおるゆか抱日香帳は

但是速持くもおるゆか抱日香帳は
く身く役人具くもあつたを儀所は
是くく色くゆ平
本く通くりく相而安

一丁間六十年平りたか酒井女史く敬儀
あま師を意くは事は
相而安くは強くあつたを相而安く可くく
業くは此の中余多根をきり移りた
大く元念入くくくは官性事くものを
相而安くく中中くあつたはし自らくは所

概あり者中お母の事と云ふと概あり
このお母は長徳浦に生れ居り居り
このお母は留る月夜に何事かあり居り
このお母は留る月夜に何事かあり居り
このお母は留る月夜に何事かあり居り

一 所方と改方と云ふは概あり居り
高平とあるは海の中にも居り居り
若しくは所方と云ふは概あり居り
町送りと云ふは別にお母の居り居り
但しと云ふは概あり居り居り

以後の事は括別にお母の居り居り
若しくは所方と云ふは概あり居り
町送りと云ふは別にお母の居り居り
但しと云ふは概あり居り居り

一 大分と云ふは概あり居り居り
このお母は留る月夜に何事かあり居り
このお母は留る月夜に何事かあり居り
このお母は留る月夜に何事かあり居り
このお母は留る月夜に何事かあり居り

一、つたわは被、ゆき、葉、こ、こ、の、後、を、こ、こ、
け、見、あ、ま、さ、る、か、わ、進、け、め、ま、ま、ま、ま、
者、右、右、右、右、右、右、右、右、右、右、
長、の、松、葉、こ、こ、ま、ま、ま、
右、と、通、の、相、解、は

一、丁卯の事、正月九日、高、傳、中、之、教、奉、
四月、廿、日、若、江、村、の、寺、に、り、ま、ま、ま、
所、在、地、を、め、め、め、め、め、め、め、め、め、め、
地、を、も、も、も、も、も、も、も、も、も、も、
成、り、た、り、た、り、た、り、た、り、た、り、た、り、

河、南、の、地、七、種、の、穀、物、の、大、大、大、
法、人、及、經、師、の、師、弟、の、師、弟、の、師、弟、
な、ま、ま、ま、代、地、な、ま、ま、右、上、の、場、
有、り、た、り、上、の、地、は、場、中、の、所、を、
唯、唯、唯、唯、唯、唯、唯、唯、唯、唯、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
右、上、の、地、は、右、上、の、地、

十月

丁卯八年、年、去、り、ま、ま、ま、ま、ま、
と、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

石之長く細く

正月

壬辰九月廿三日...
...
...
...

...
...
...
...
...

正月

寛政二年十月七日...
...
...

...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

右書面...

十月

曲淵...
...

寛文三十五年二月十日
此書新製ありあき
過ぎる政の如き事あり
此書一りありしを
此書は向ふ此書あり

二月

曲阿陽抄
書系系系系

一 寂希は名を信を補 遠くは信を
此書は向ふ此書あり

一 清波は名を信を補 遠くは信を
此書は向ふ此書あり

寛文抄
此書は向ふ此書あり
山名物書

寛文

一 陸上

1 德林 2011/10/20 德林 2011/10/20
1 德林 2011/10/20 德林 2011/10/20
1 德林 2011/10/20 德林 2011/10/20

憲法部類 六
述如

出火
出火

六

出火
出火

一 嘉保二年正月十日
平出清兵相觸

旧臘某日及日有事舟在定類燒方
尚表出備某味等不字向
涉劫字古以書身出出信其有之
兵相觸

戊子月

私曰此中書身與類燒之致每出
仍以後類燒之致也
不記



五月

景

言何能

言何能

一何事以第何事何

形在燒矣

但此を傳ふ事と大連 且其に燒失は傳ふ
其狀を書加へて下す

右に於て何事有る事と云ふは其の傳ふ事と云ふ
也中す

二月

拜情有る事と云ふ

一 小名

一 二名右に小名連

一 三名右に小名連

一 四名右に小名連

一 五名右に小名連

何事及

何事

何事
何事

何事

一 何事と云ふ何事

即何事

何事

何事

何事

何事

一 部百石

計拾支

一 百石

拾支

但百俵は口の條に唯一

一 十俵

七支

一 三俵

六支

一 一俵

三支

一 拾五俵

即支

但品末は拾五俵より少くは多し
多割に深は拾五俵より少くは多し
俵に纏りて其末を右に示すべし
此の所は

少は持方より少くは多し

五三月

一 享保六 丑年二月廿六日

長考

覽

所發之 仁出の如信者
其後以之指不燒失く
任身聖事より
其後以之指不燒失く
任身聖事より
其後以之指不燒失く
任身聖事より

江行記

一 當春洋信令之 江行記 其官也 其信
亦類捷之也 其官也 其信
令之 江行記

右之類也 亦類捷之也 其官也 其信
亦類捷之也 其官也 其信

一 享保七年正月十八日

石川所也 亦類捷之也 其官也 其信
亦類捷之也 其官也 其信

小川所也 亦類捷之也 其官也 其信
亦類捷之也 其官也 其信

一 享保七年正月十一日 亦類捷之也 其官也 其信
亦類捷之也 其官也 其信

贊

一 亦類捷之也 其官也 其信
亦類捷之也 其官也 其信

兼之平居事は自今以後若くは事
凡下官致し身立つて後人
子と相意人致し由り後事
身立云上仕立と云ふは
身立と云ふは仕立と云ふは
中相の事

一 小舟の事
別の人の中
身立の事
仕立の事

身立の事

以上

六月

一 享保七年六月廿日

長来山海

史書
喜州
極
政
所

とらの中は幾つをばさるる事方々定むる
ゆゑ敷くしるまゝの事希ふ難は後
ころたのめり新調の相違なり

一 嘉保七年十月廿一日書付

通以み方様合ふ事仰り如く御浦を宗次
と云ふ事とす可河の事仰り事宗次様
御浦を宗次と云ふ事仰り事宗次様
一のりおむる事

十月

一 嘉保七年十月廿一日書付

とら後には上より中物事の上は宗次様
書付らね候し由

お火事と云ふ事仰り事宗次様御浦を宗次
と云ふ事仰り事宗次様御浦を宗次
と云ふ事仰り事宗次様御浦を宗次
と云ふ事仰り事宗次様御浦を宗次
と云ふ事仰り事宗次様御浦を宗次
と云ふ事仰り事宗次様御浦を宗次
と云ふ事仰り事宗次様御浦を宗次
と云ふ事仰り事宗次様御浦を宗次
と云ふ事仰り事宗次様御浦を宗次
と云ふ事仰り事宗次様御浦を宗次

十月

惠德名之書乃四海相之海山松之江漢

法品古拓

大出書以

法書流書以

山中性如書以

也物天書以

少者法書以

概如烟書以

表如右書以

亦同眼以

一京保凡卯年二月廿一日

以和知以

書古十有六事之書而為發之書也亦也
法也 書古十有六事之書而為發之書也亦也
其也 書古十有六事之書而為發之書也亦也
其也 書古十有六事之書而為發之書也亦也
其也 書古十有六事之書而為發之書也亦也
其也 書古十有六事之書而為發之書也亦也
其也 書古十有六事之書而為發之書也亦也
其也 書古十有六事之書而為發之書也亦也
其也 書古十有六事之書而為發之書也亦也
其也 書古十有六事之書而為發之書也亦也

卯二月

一 享保八分年三月二日 凡く書付た保長(守)殿
之事以渡竹(守)より書付た相約也

覺

一 二月十六日 出守(守) 居先頼焼(守) 方(守) 五(守) 佑
米(守) 方(守) 銭(守) 市(守) 方(守) 向(守) 山(守) 勘(守) 定(守) 所(守)
書付た(守) 事(守) 也(守)

一 頼焼(守) 内(守) 六(守) 年(守) 平(守) 東(守) 山(守) 東(守) 五(守) 段(守) 焼(守) 共(守) 女(守) 子(守)
石(守) 下(守) 高(守) 山(守) 山(守) 例(守) 江(守) 信(守) 守(守) 任(守) 所(守) 山(守) 焼(守)
先(守) 之(守) 段(守) 教(守) 姓(守) 名(守) 書(守) 付(守) 山(守) 勘(守) 定(守) 所(守) 山(守) 勘(守) 定(守) 所(守)
先(守) 之(守) 自(守) 今(守) 山(守) 勘(守) 定(守) 所(守) 山(守) 勘(守) 定(守) 所(守) 山(守) 勘(守) 定(守) 所(守)
燒(守) 共(守) 女(守) 子(守) 之(守) 段(守) 教(守) 姓(守) 名(守) 書(守) 付(守) 山(守) 勘(守) 定(守) 所(守)

不(守) 上(守) 之(守) 事(守) 也(守)

本(守) 之(守) 山(守) 勘(守) 定(守) 所(守) 山(守) 勘(守) 定(守) 所(守) 山(守) 勘(守) 定(守) 所(守)
相(守) 約(守) 之(守) 事(守) 也(守)

卯三月

一 享保八分年三月十八日 於(守) 美(守) 若(守) 山(守) 勘(守) 定(守) 所(守)
山(守) 勘(守) 定(守) 所(守) 山(守) 勘(守) 定(守) 所(守) 山(守) 勘(守) 定(守) 所(守)
山(守) 勘(守) 定(守) 所(守) 山(守) 勘(守) 定(守) 所(守) 山(守) 勘(守) 定(守) 所(守)

一 壬午(守) 廿(守) 六(守) 日(守) 平(守) 達(守) 節(守) 山(守) 勘(守) 定(守) 所(守)
山(守) 勘(守) 定(守) 所(守) 山(守) 勘(守) 定(守) 所(守) 山(守) 勘(守) 定(守) 所(守)
山(守) 勘(守) 定(守) 所(守) 山(守) 勘(守) 定(守) 所(守) 山(守) 勘(守) 定(守) 所(守)



此中... 石川... 江戸...
一の... 年... 月... 日...

一 六拾石... 九拾石... 令拾石

一 百石... 令百石

一 五拾石... 令五拾石

一 七拾石... 令七拾石

一 八拾石... 令八拾石

一 九拾石... 令九拾石

本上... 備... 十... 候... 出... 仕... 事...

以上

卯... 月

右... 同日... 遊... 美... 茶... 等... 石... 川... 之... 江... 等... 教... 令... 出... 書... 身... 等... 事... 以... 後... 也...

賞

一 家... 係... 在... 石... 川... 上... 等... 所... 有... 之... 地... 等... 事... 以... 後... 也...

一 石... 川... 之... 江... 等... 所... 有... 之... 地... 等... 事... 以... 後... 也...

一 石... 川... 之... 江... 等... 所... 有... 之... 地... 等... 事... 以... 後... 也...

一家の事...
の事

一 尾...
...
...

...
...

一 軒...
...

一 他...
...

善信

本...
...

...

一 嘉保...
...

...
...

一 吉...
...

今更なる事ならず... 内々... 其...
 何方第... 此...
 一...
 此...

嘉平月

一... 二月十日...

... 竹城...
 ... 大...
 ...

... 二月十日...
 ...

費

一 大元寺に於て是の如く凡そ一年中恒春
 妙く入苑一垣中御安し介至親之
 更り申さず此の如く一は夜中
 無二一は此の如く申さず是の如く
 押一は夜中御安し介至親之
 押送しゆりあるが如く
 右の如く是の如く申さず是の如く
 中酒の如く申さず是の如く
 此の如く申さず是の如く

一 主保十一年辛酉月日
 此の如く申さず是の如く

大元寺に於て是の如く凡そ一年中恒春
 妙く入苑一垣中御安し介至親之
 更り申さず此の如く一は夜中
 無二一は此の如く申さず是の如く
 押一は夜中御安し介至親之
 押送しゆりあるが如く
 右の如く是の如く申さず是の如く
 中酒の如く申さず是の如く
 此の如く申さず是の如く

右の如く是の如く申さず是の如く
 中酒の如く申さず是の如く
 此の如く申さず是の如く

十月

初日... 昨日... 日記

一 嘉保十二年正月十九日... 新大寺

十二月十日... 先年... 中... あり... 跡... 勢...

一 嘉保十二年... 右... 一...

正月

一 元受元... 年...

一 大元... 一 定... 中... 中...

白後ハ 御機凡之類ハ由也特由成ハ
大出也之類ハ格別ニ由也凡ハ由也凡ハ由也
之類ハ若見遠ハ由也凡ハ由也凡ハ由也
凡ハ由也凡ハ由也凡ハ由也凡ハ由也
凡ハ由也凡ハ由也凡ハ由也凡ハ由也
凡ハ由也凡ハ由也凡ハ由也凡ハ由也

一 實元保元も奉正の年大なる由也凡ハ由也
長之前ハ由也
大出之類ハ由也凡ハ由也凡ハ由也

白後馬トク大元見是是也凡ハ由也
白後馬トク大元見是是也凡ハ由也
凡ハ由也凡ハ由也凡ハ由也凡ハ由也

一 大出之類ハ由也凡ハ由也凡ハ由也
大出之類ハ由也凡ハ由也凡ハ由也
大出之類ハ由也凡ハ由也凡ハ由也
大出之類ハ由也凡ハ由也凡ハ由也
大出之類ハ由也凡ハ由也凡ハ由也

乙卯二月

一 寛保三年七月廿一日 於西之野 於平
伊豆之敷 於東之野 於西之野 於東之野 於西
福山

大寺社 於東之野 於西之野 於東之野 於西之野
伊豆之野 於東之野 於西之野 於東之野 於西之野
東之野 於東之野 於西之野 於東之野 於西之野

一 近東 於東之野 於西之野 於東之野 於西之野
西之野 於東之野 於西之野 於東之野 於西之野

以上

五月

右を大野 於東之野 於西之野 於東之野 於西之野
一のり 於東之野 於西之野 於東之野 於西之野

一 寛保二年七月十日 於西之野 於東之野
伊豆之野 於東之野 於西之野 於東之野 於西之野
大寺社 於東之野 於西之野 於東之野 於西之野
西之野 於東之野 於西之野 於東之野 於西之野
大寺社 於東之野 於西之野 於東之野 於西之野
伊豆之野 於東之野 於西之野 於東之野 於西之野
西之野 於東之野 於西之野 於東之野 於西之野
大寺社 於東之野 於西之野 於東之野 於西之野

右之巻は福の年夏迄の事なり其の巻一巻
端切の事なり其の巻一巻は福の年夏迄の事なり
其の巻一巻は福の年夏迄の事なり其の巻一巻
は福の年夏迄の事なり其の巻一巻は福の年夏迄の事なり
其の巻一巻は福の年夏迄の事なり其の巻一巻は福の年夏迄の事なり

宝曆二年正月丙午に雲井板屋の御下敷
に奉りし書は右の如し其の巻一巻は福の年夏迄の事なり
其の巻一巻は福の年夏迄の事なり其の巻一巻は福の年夏迄の事なり
其の巻一巻は福の年夏迄の事なり其の巻一巻は福の年夏迄の事なり

右の巻は福の年夏迄の事なり其の巻一巻は福の年夏迄の事なり
其の巻一巻は福の年夏迄の事なり其の巻一巻は福の年夏迄の事なり
其の巻一巻は福の年夏迄の事なり其の巻一巻は福の年夏迄の事なり

右之通一ツは相福

正月

一 寶曆二年正月丙午に雲井板屋の御下敷に奉りし書は右の如し
其の巻一巻は福の年夏迄の事なり其の巻一巻は福の年夏迄の事なり
其の巻一巻は福の年夏迄の事なり其の巻一巻は福の年夏迄の事なり
其の巻一巻は福の年夏迄の事なり其の巻一巻は福の年夏迄の事なり

此の如く、途平、定、在、自、院、の、事、
修、事、の、際、に、所、成、格、の、事、也。

一、於、場、亦、亦、也、中、所、成、格、の、事、也、
之、事、也、中、所、成、格、の、事、也、
自、今、の、如、く、之、事、也、
之、事、也、中、所、成、格、の、事、也、

一、大、河、の、事、也、
途、平、の、際、に、所、成、格、の、事、也、
之、事、也、中、所、成、格、の、事、也、
之、事、也、中、所、成、格、の、事、也、

色、形、又、一、の、事、也、

在、の、通、一、の、り、也、

十、月

一、正、和、三、年、三、月、十、日、の、事、也、
其、事、也、

大、河、の、事、也、

一、烟、代、の、事、也、

位、の、事、也、

一、丸、小、地、行、の、事、也、

位、の、事、也、

右の御下り御座り

右の御下り御座り
右の御下り御座り
右の御下り御座り
右の御下り御座り

三月

右の御下り御座り

一 明和六年三月十八日
貴族の御下り御座り
山田十左衛門

大正元年三月
御下り御座り
御下り御座り
御下り御座り

御下り御座り
御下り御座り
御下り御座り
御下り御座り

一 大正元年三月
御下り御座り
御下り御座り
御下り御座り
御下り御座り

三月

御下り御座り
御下り御座り
御下り御座り
御下り御座り

馬とて千何れ様子と云ふは向後長二の事
之由は中御に若くは侍より其頃より
山月より侍より改姓と云ふは
十海より侍より富磨之侍より
大と云ふは中御に侍より

一 大寺と云ふ親類其介知人
万石の寺と云ふ其介知人
古竹の寺と云ふ其介知人
古竹の寺と云ふ其介知人
古竹の寺と云ふ其介知人
古竹の寺と云ふ其介知人

生後未だ改姓の
をいふは
其の由は
後を協
横の由は

古の由は

二月

一 明和七年三月九日水野
四酒
大寺

夜半地行... 大元... 地行...
二月

一 晴社九在年二月... 地行...
二月

晴社九在年二月... 地行...
二月

晴社九在年二月... 地行...
二月

晴社九在年二月... 地行...
二月

二月

晴社九在年二月... 地行...
二月

晴社九在年二月... 地行...
二月

子名以中地方十山如來、此名以...
此信令... 任... 係... 山...
本後... 上... 山...
り... 山...

一 子石

口 山...

一 九石

口 山...

一 七石

口 山...

一 六石

口 山...

一 五石

口 山...

一 四石

口 山...

一 三石

口 山...

一 山...

口 山...

一 山...

口 山...

一 山...

一 山...

一 山...

一 山...

山...

五月

高二月十日、日暮、巴系丸山、巴中、
風急、乃の夫久、急、新、統、
依、地方、巴、山、山、
皆、之、百、
り、
結、
百、
少、
也、
五、

結、

百、

少、

也、

五、

百、

日、

四、

三、

二、

一、

招、

日、

日、

日、

右、通、向、

五月

一、

山、村、

先、年、

踏草菁場不可定也 江田新子ノ後
大夏ノ引年其在也、及而、之、
引年、と、別、ノ、場、不、
引年、
引年、
引年、
引年、
引年、
引年、
引年、
引年、
引年、
引年、

能合亦且、
也定、
若、
一、

一、
一、

一、
一、
一、
一、
一、

かみまき子好く河魚りて生か河所
大河ふみ路跡有るはくはく子まき
若河及子好く子まき大河と大河
まき河魚りて生か

右の山由信田面浦より初めりて北東

十二月

一 安永三年辛丑月十九日如勉寺江で敬ら成
山瀬より一布目集人より初め

去る年西浦新築より初め善信未改以来
長谷寺より初め善信未改以来

千波高寺友事より初め善信未改以来
この中より初め善信未改以来
亦勿論より初め善信未改以来
也より善信未改以来
由由由由由由由由由由由由由由由由

二月

右の通りの山由信

一 安永三年辛丑月十九日如勉寺江で敬ら成
山瀬より一布目集人より初め
去る年西浦新築より初め善信未改以来
長谷寺より初め善信未改以来

市... 元... 所... 見...
場... 事... 事... 事...

一 堂... 所... 大... 諸... 事...
見... 事... 事... 事... 事...

右... 事... 事...

正月

一 堂... 事... 正月... 事... 事...
事... 事... 事... 事...

大... 元... 事... 事... 事...
事... 事... 事... 事... 事...
事... 事... 事... 事... 事...

右... 事... 事...

正月

一 堂... 事... 正月... 事... 事...
事... 事... 事... 事... 事...

右の如き事 我亦亦の如く世に生るるも
無しの如くも 何れも 出た元程に 入る程
其の如き事 且石は 何れも 生るるも
その如き事 又其の如き事 何れも 生るるも
其の如き事 又其の如き事 何れも 生るるも
其の如き事 又其の如き事 何れも 生るるも
其の如き事 又其の如き事 何れも 生るるも
其の如き事 又其の如き事 何れも 生るるも
其の如き事 又其の如き事 何れも 生るるも
其の如き事 又其の如き事 何れも 生るるも

正月

右の通りの如し

廿四日 廿五日 廿六日 廿七日
廿八日 廿九日 三十日

一 右の如き事 廿五日 廿六日 廿七日
廿八日 廿九日 三十日

右の如き事 廿五日 廿六日 廿七日
廿八日 廿九日 三十日

中事端を及人... 此後... 白の透... 句海... 句海... 句海...

右と通... 四月

一 永六... 年正月三日

一 中事... 句海... 句海... 句海...

江に濱... 句海...

一 永九... 年七月廿六日

中事... 句海... 句海... 句海... 句海... 句海... 句海... 句海... 句海... 句海...

高き雅而安らむ方より一紙文し多し其
寄書及し四月より一紙書すなり

七月

右と通火河故に書すなり其の如し

一 永平十一年正月五日乃に空の海舟右見を殿
上儀の海舟の四月の書すなり其の如し

以日古子整くし其の如し其の如し其の如し
その如し其の如し其の如し其の如し其の如し
其の如し其の如し其の如し其の如し其の如し
其の如し其の如し其の如し其の如し其の如し

之を分くし其の如し其の如し

正月

一 永平二年 辛丑二月五日乃に高河舟と殿の海
舟の四月の海舟の四月の書すなり其の如し

舟士舟浦と通火の如し其の如し其の如し
火の如し其の如し其の如し其の如し其の如し
其の如し其の如し其の如し其の如し其の如し
其の如し其の如し其の如し其の如し其の如し
其の如し其の如し其の如し其の如し其の如し
其の如し其の如し其の如し其の如し其の如し

以日次第繁ふりて是より古田守を道祖守
中至極おもふ由りて怪をなすは
申生御前をのりて以て下りて神
十間より以て守りてはつらき事

二月

一 丁卯六月辛酉日下りて海井石に之を敷く事
とらるる事敷く事
御世と殊る事
由りて是より古田守を道祖守
申生御前をのりて以て下りて神
十間より以て守りてはつらき事

句を言ふ事
は後より是れは古田守を道祖守
お通ひを怪敷く事
は後より是れは古田守を道祖守
お通ひを怪敷く事
は後より是れは古田守を道祖守
お通ひを怪敷く事

一 何方より古田守を道祖守
お通ひを怪敷く事
は後より是れは古田守を道祖守
お通ひを怪敷く事
は後より是れは古田守を道祖守
お通ひを怪敷く事

和洋の所造海州の由に在るは

保正人のことなるは

の偏を格別な事自方にも事

正なる事共なるは

二五のうけ後ハ株の

とてなるは他は

うけのむき初相浦

きひ

一丈と元幕のうけ

は

右のうけ元入

何方なるは

あはれ人なるは

一丈のうけ

右のうけ

あはれ

あはれ

あはれ

右のうけ

利金法地... 此切子中をいふ... 但主事北人... 川紙お動り者... 此切子中をいふ... 但主事北人... 川紙お動り者...

市

... 此切子中をいふ... 但主事北人... 川紙お動り者... 此切子中をいふ... 但主事北人... 川紙お動り者...

辛卯月

... 此切子中をいふ... 但主事北人... 川紙お動り者...

一 拾五石

... 此切子中をいふ... 但主事北人... 川紙お動り者...

一 拾五石

... 此切子中をいふ... 但主事北人... 川紙お動り者...

一 拾五石

... 此切子中をいふ... 但主事北人... 川紙お動り者...

一 拾五石

... 此切子中をいふ... 但主事北人... 川紙お動り者...

五拾五

四拾九

三拾五

二拾九

一拾五

一拾九

一拾五

一拾九

一拾五

一拾五

一拾九

一拾五

一拾九

一拾五

一拾九

一拾五

一拾九

一拾五

一拾九

五拾五

四拾九

三拾五

二拾九

一拾五

一拾五

一拾九

一拾五

一拾九

一拾五

一 石名も
二 石名も

石名も

一 石名も
二 石名も

石名も

一 石名も
二 石名も

石名も

一 石名も
二 石名も

石名も

一 石名も
二 石名も
三 石名も
四 石名も
五 石名も
六 石名も
七 石名も
八 石名も
九 石名も
十 石名も

一 石名も
二 石名も
三 石名も
四 石名も
五 石名も
六 石名も
七 石名も
八 石名も
九 石名も
十 石名も

年八月

一 石名も
二 石名も
三 石名も
四 石名も
五 石名も
六 石名も
七 石名も
八 石名も
九 石名も
十 石名も

一 石名も
二 石名も
三 石名も
四 石名も
五 石名も
六 石名も
七 石名も
八 石名も
九 石名も
十 石名も

言機之而後... 教令... 河... 爲... 相... 利... 事... 作... 子...

事... 種... 社... 所... 七... 條... 規...

三月... 事... 社... 所... 七... 條... 規...

種... 條... 規... 社... 所... 七... 條... 規... 事... 社... 所... 七... 條... 規... 事... 社... 所... 七... 條... 規...

伯... 卷... 子... 入...
... 子... 子... 子...
... 子... 子... 子...

二月

... 二月... 伯... 子... 子... 子...

伯... 子... 子... 子...
... 子... 子... 子...
... 子... 子... 子...

伯... 子... 子... 子...
... 子... 子... 子...
... 子... 子... 子...

二月

伯... 子... 子... 子...
... 子... 子... 子...
... 子... 子... 子...

伯... 子... 子... 子...
... 子... 子... 子...
... 子... 子... 子...

在松林堂觀之也 胸中滋味

不類沙料和願寺江瓜山方大之成任
可之相得々

十月

古通之相解々

漢書文庫

本家藏書

